

令和 3 年度 施策評価表

施策	1304	畜産業の振興	施策担当部等	産業振興部	部長	下玉利 輝幸
			施策担当課等	農林水産振興課	課長	山田 充哉
施策の方針	優良畜産物の安定生産を図るとともに、家畜伝染病の発生防止や早期発見のための取組により畜産環境の向上に努める。また、公共牧場の有効利用を推進する。					
関連するSDGsのゴール	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> 2 飢餓をゼロに</div> <div style="text-align: center;"> 8 働きがいも経済成長も</div> <div style="text-align: center;"> 9 産業と技術革新の基盤をつくろう</div> <div style="text-align: center;"> 11 住み続けられるまちづくりを</div> <div style="text-align: center;"> 12 つるも豊か消費も責任</div> <div style="text-align: center;"> 17 パートナーシップで目標を達成しよう</div> </div>					

【DO（実施）】

基本計画における目標値

指標名	単位	基準値 (H26)	H28目標値	H29目標値	H30目標値	R1目標値	R2目標値	R2年度	
			H28実績値	H29実績値	H30実績値	R1実績値	R2実績値	達成率	進捗率
① 畜産物の年間産出額	千万円	174	175 257	175 255	180 249	180 249	180 255	141.7%	141.7%
② 公共牧場の1日当たりの平均収容頭数	頭	78	74 74	75 78	80 80	85 71	78 67	85.9%	85.9%
③									
④									
⑤									

施策達成状況の説明

①畜産物の年間産出額は、新型コロナウイルス感染症の影響により、肉用肥育牛及び肉用繁殖牛の市場単価が下がったことにより産出額が落ちたものの、肉用鶏の出荷羽数が大幅に増え、昨年度の産出額及び目標値を大きく上回った。

②公共牧場の1日当たりの平均収容頭数は、肉用牛については牧場を利用していた繁殖牛農家1戸が令和元年12月に廃業したものの、酪農家が肉用繁殖牛農家への経営転換等を進めていることで、昨年度の平均収容頭数に比べ微増であったが、乳用牛については前述した酪農家の経営転換等の影響で預託対象である育成牛が大幅に減少、それに比例し平均収容頭数も減少したことにより、昨年度の平均収容頭数及び目標値を下回った。

施策経費

(単位:千円)		R2年度 決算	R3年度 予算	R4年度 見込	特記事項
内訳	事業費	33,905	234,866	28,370	
	国庫支出金	1,600	2,400	1,100	
	県支出金	60	182,500	0	
	地方債	0	0	0	
	その他	3,767	4,306	4,120	
	一般財源	28,478	45,660	23,150	
	人件費	9,992	10,774	-	
フルコスト	43,897	245,640	-		

施策の概要

130401	優良畜産物の安定生産	優良畜産物を安定的に生産するため、優良素畜の導入を計画的に行うとともに、繁殖技術や飼養技術の向上を図ります。 また、関係機関と連携して、知名度向上や販路拡大に取り組みます。
130402	防疫体制の強化	口蹄疫など家畜伝染病の発生防止や早期発見のため、自衛防疫の啓発に努めます。 また、獣医師による農家への定期的な巡回などにより、家畜伝染病に関する迅速かつ適切な情報伝達を行うことで、防疫体制の強化を図ります。
130403	公共牧場の有効利用	畜産農家の経営力の向上を図るため、公共牧場を有効活用し、農家の労力の軽減や優良な乳用牛・肉用牛の育成に取り組みます。

【CHECK (評価) 施策担当部長】

<p>施策を達成する上での問題点・課題</p>	<p>優良畜産物の安定生産については、肉用牛では子牛価格、肉用牛枝肉価格とも、新型コロナウイルス感染症の影響により、市場価格が一時大幅に下落し経営を圧迫した。また、飼料価格の高騰や生産者の減少により出荷頭数は以前と比べ減少してきており、出荷頭数の確保や付加価値を持たせた畜産物生産が必要である。さらに、長崎和牛の知名度を向上させるため、令和4年9月開催予定の第12回全国和牛能力共進会へ向けた取組を、生産者や関係機関と連携し取り組む必要がある。</p> <p>防疫体制の強化については、近隣諸国において口蹄疫や鳥インフルエンザ、CSF（豚熱）等が依然として発生している。このことにより、鳥インフルエンザ、CSF（豚熱）が国内でも発生しており、本市ではまだ発生していないものの、今後も国、県及び関係団体と連携し、防疫対策に取り組む必要がある。</p> <p>公共牧場の有効利用については、牧場施設の老朽化による補修のほか、指定管理者である長崎県農業協同組合と協議しながら、有効利用に向けた取組を行っていく必要がある。</p>
-------------------------	---

【ACTION (改善・改革)】

<p>問題点を踏まえた施策構成の改善・改革や新規事業についての考え方</p>	<p>優良畜産物の安定生産について、にこにこ畜産経営事業で実施している生産者側からの意見を踏まえ、良質な畜産物づくりや出荷頭数の確保に向け継続して取り組む。</p> <p>肉用牛については、大村生まれ長崎和牛づくり事業の実施により、令和4年度に鹿児島県で開催される全国和牛能力共進会の出品に向けた取組を畜産農家で構成する団体及びJAなどと連携し進めていく。また、「長崎和牛」の高付加価値化を目指し県央地区で設立されたブランド牛「長崎和牛プレミアム県央」について、「牧場まつり」や「おおむら海と大地の感謝祭」などのイベントを通じて普及啓発を図っていく。</p> <p>防疫体制の強化については、今後も継続して県や関係団体と連携し防疫対策に取り組む。</p> <p>公共牧場の有効利用については、酪農家の経営転換により肉用牛の預託頭数が増加傾向にある中、預託牛（主に肉用牛）の体格が、これまでの肉用牛改良の成果や各農家の飼育管理技術の向上により、以前と比べ大きくなっている状況であるため、牛舎の補改修等の検討のほか、経年劣化により補修等が必要な施設等について、利用者協議会及び指定管理者等と協議しながら、計画的に改善していく。また、安心して預けてもらえるように、指定管理者と協議しながら、飼育管理の向上を図っていく。</p>
--	--

令和4年度新規事業

	事業名 (仮称)	担当課	R4年度見込	対象・事業概要など
			事業費 (千円)	
1				
2				
3				
4				
5				
			0	